

# ときめき インタビュー



…プロフィール…

1989年2月7日生まれ。中学の時に越谷へ。越谷南中学校から浦和東高校に進学。国士館大学を卒業し、現在はミキハウスに所属し、活躍中。東京シンクロクラブ所属。ソロ出場した2008年の日本選手権で2位を記録。その後2009、2010年には連続してソロ1位に輝く。2008年のスイスオープン、2009年のジャーマンオープンでもソロ1位を獲得。柔軟性に富んだ演技で、シンクロ界の期待を背負う22歳。

## シンクロとの出会い

シンクロナイズドスイミングは、音楽に合わせ演技をし、技の完成度や表現力などを競う。

日本シンクロ界の星、足立夢実選手は現在22歳。水泳を始めたのは3歳だという。

「母が泳げなかったため娘たちは泳げるようにと、スイミングスクールに通わせてくれました」

シンクロとの出会いは、小学2年生のとき。

「体が柔らかかったので向いているかもしれないと思い、通っていたスイミングスクールのシンクロの講習に参加しました。すごく楽しかったんです」

以来、中学、高校、大学に進み、さらに現在は企業に所属し、シンクロを続けている。

## 転機となった日本選手権

地道な練習を重ねていく中で、普段は見えない成長が、一気に形となって表れた出来事があった。

「大学2年のときにソロで出場した日本選手権で、最初は3位だったのですが、私が幼いころから憧

れていた選手と競って、最後の最後で2位になったんです。大好きな選手に勝って収めたこの成績は、とても大きなものでした」

その後も足立選手は、次々に結果を残し注目を集めていく。試合に向けて合宿生活を送ることも多い。合宿中の練習時間は、朝9時から夜8時までだということから驚いてしまう。

「練習はハードで、辛いと思うこともありますが、試合では楽しんで演技をしています。いい演技ができたときに、シンクロをやっているよかったですと思います」

アスリートにとって、身体が命。体調管理にも気をつけている。

「練習量が多いので、体重がどんどん落ちてしまうんです。多いときで1日に1・5kg減ることも。体重維持に気をつけています」

現在の照準は7月に上海で開催される世界水泳選手権。来年はロンドンオリンピックが控えている。

「世界水泳が終わったら、次はオリンピックの選考会が始まります。ひとつの種目をこれだけやってきて、オリンピックを目指せるというのは、自分でもすごいことだと思います。世界水泳の後にはオリ

ピックに向けてがんばります」

## 越谷に帰るとホっとします

中学のときに転居して以来、越谷市に住み続けている。中学校、高校、大学と、ここから通った。

**厳しい練習は辛いと思うこともありますが、試合では楽しんで演技をしています。**



これが2008年にソロで出場した日本選手権で2位に輝いた思い出のメダル

学生時代もシンクロ一色の日々。「学校の友達みたいに遊びたいと思うことが何度もありました。でも試合が終わって、シンクロがオフシーズンに入ると、遊び慣れないせいかわるがわるがやらないです。それでまたシンクロがやりたいなと思うんです(笑)」

合宿生活で家を離れていることも多い。「家の前が田んぼで、蛙が鳴いていたりして、のどかだなと思います。家に帰るとホっとします。川沿いの桜も毎年楽しみにしています。それに夏の花火大会、練習がないときに見に行きました」

シンクロでここまでの成績を収め、今、感謝している人は？と尋ねると真っ先に母親を挙げた。「母とレイクタウンにシヨッピングに行ったりします。仲がいいんですよ」

越谷の子もたちへのメッセージをお願いと、「私も中学生のころには、まさか自分がここまで来られるとは思っていませんでした。夢中になってひとつのことをやり続けることが、大事なことだと思います」



シンクロナイズドスイミング選手 足立 夢実さん

シンクロ界の期待の星、足立夢実選手。2009、2010年の日本選手権では連続してソロ1位に輝き、今年の世界水泳、その後はオリンピックが控えています。中学から越谷在住だという足立選手に、日々の練習のこと、越谷での思い出、これまでを振り返っていただきました。